

1. 大腸の腫瘍マーカーとして適当なものはどれか

- (1) carbohydrate antigen 19-9
- (2) carcinoembryonic antigen
- (3) prostate specific antigen
- (4) cytokeratin 19 fragment
- (5) alpha-fetoprotein

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

2. 吸収障害をきたす病態と栄養素の組合せで正しいものはどれか

- (1) 空腸切除 — ビタミン B12
- (2) 潰瘍性大腸炎 — アミノ酸
- (3) 閉塞性黄疸 — ビタミン K
- (4) 慢性膵炎 — 脂肪
- (5) 回盲部切除 — 鉄

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

3. 顎下腺管が開口する部位として適当なのはどれか

- (a) 口腔前庭
- (b) 臼後三角
- (c) 頬粘膜
- (d) 舌下ひだ
- (e) 舌下小丘

4. 咬合不正（咬み合せの異常）を生じる骨折はどれか

- (1) 頬骨弓骨折
- (2) 下顎骨筋突起骨折
- (3) 下顎骨体部骨折
- (4) 下顎骨関節突起骨折
- (5) Le Fort II型骨折

(a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

5. 開口に関与する筋はどれか

- (a) 頬筋
- (b) 側頭筋
- (c) 咬筋
- (d) 外側翼突筋
- (e) 内側翼突筋

6. 歯性上顎洞炎について誤っているものはどれか

- (a) う歯や歯周炎が原因で生じる
- (b) 下顎臼歯が原因歯となることが多い
- (c) 片側の上顎洞に発症することが多い
- (d) 歯科用インプラントが原因で起こることがある
- (e) 上顎洞の X 線不透過性が亢進する

7. 口腔癌について正しいのはどれか

- (1) 頸部リンパ節への転移は少ない
- (2) 放射線治療は有効でない
- (3) 移行上皮癌が多い
- (4) 白板症は前癌病変である
- (5) 遠隔転移部位では肺が多い

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

8. 顎骨内に発生しない嚢胞性病変はどれか

- (1) 原始性嚢胞
- (2) 歯根嚢胞
- (3) 角化嚢胞性歯原性腫瘍
- (4) 甲状舌管嚢胞
- (5) 側頸嚢胞

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

9. 関係のない組み合わせはどれか

- (a) 口腔カンジダ症 — HIV 感染症
- (b) 白血病 — 歯肉出血
- (c) ハンター舌炎 — 悪性貧血
- (d) 黒毛舌 — 抗菌薬
- (e) 水痘 — Koplik 斑

10. シェーグレン症候群の診断基準（1999 年厚生労働省研究班）の陽性（異常）所見としてただしいのはどれか。

- (a) サクソントテストで 3 分間 2g 以下の唾液分泌量低下
- (b) シルマー試験で 10 分に 5mm 以下
- (c) ガム試験にて 10 分間で 10g 以下の唾液分泌量低下
- (d) 口唇腺組織で 4mm²あたり 1focus（導管周囲に 50 個以上のリンパ球浸潤）以上
- (e) ガリウムシンチグラフィーにて唾液腺集積低下の所見

11. 唾液腺悪性腫瘍について正しいのはどれか

- (1) 唾液腺悪性腫瘍の組織型は 13 種類ある
- (2) 組織生検にて診断を確定し、治療方針を検討する
- (3) 舌下腺腫瘍では 70-90%が悪性である
- (4) 同一組織型の中で高悪性度と低悪性度の分類に分かれるものがある
- (5) 治療の基本は、化学放射線療法である

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

12. 食道癌と咽頭癌について正しいのはどれか

- (1) とともに、固有筋層に達しない癌を表在癌と定義する
- (2) 粘膜筋板は、咽頭にはない
- (3) 表在癌は早期癌である
- (4) 表在癌はリンパ節転移の可能性が低い
- (5) 腫瘍の深達度は予後と関連しない

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

13. 注腸造影で見られる一般的な大腸の解剖学的特徴について正しいものはどれか
- (a) 下行結腸は上行結腸より径が太い
 - (b) 下行結腸では上行結腸に比して結腸膨起が目立つ
 - (c) 下行結腸は固定された腸管で可動性に乏しい
 - (d) 上部直腸と下部直腸の境界は経験的に下直腸襞に一致するとされている
 - (e) 盲腸と上行結腸は回盲弁の下唇レベルで境界される

14. 大腸 CT について正しいものはどれか
- (1) 炭酸ガスを拡張に用いる
 - (2) 前処置を必要としない
 - (3) 平坦病変の検出に有用である
 - (4) 8 列以下の多列検出型 CT 装置が検査に適している
 - (5) 標識剤としてバリウムを用いることがある

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

15. 食道癌の放射線治療について正しいものはどれか
- (a) 日本では 60Gy/30 回の照射が行われることが多い
 - (b) 欧米では 78Gy/39 回の照射が一般的である
 - (c) 日本では扁平上皮癌と腺癌の割合はほぼ同じである
 - (d) アルファベットの Y の字に似た照射がよく行われる
 - (e) 飲酒は食道癌のリスクを低下させる

16. 直腸癌の放射線治療について正しいものはどれか
- (a) 直腸癌は基本的に全例が放射線治療の適応である
 - (b) 術後再発での疼痛緩和に効果が期待できる
 - (c) 術前照射は行われていない
 - (d) 全結腸照射が行われる
 - (e) 日本では直腸癌より肛門管癌の方が頻度が高い

17. 次の文章のうち正しいものはどれか
- (1) 腸重責の代表的な画像所見では、**target sign** や **pseudokidney sign** がある
 - (2) 小児の腸重責が生じやすい部位は回盲部である
 - (3) 中腸回転異常では 270° 回転型が最も頻度が高い
 - (4) **Hirschsprung** 病は壁内神経節細胞の欠如が原因で、下痢症状をきたす
 - (5) 腸重責は学童期に多い

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

18. 次の文章のうち誤っているのはどれか
- (1) 大腿ヘルニアは嵌頓を起こしにくい
 - (2) 急性虫垂炎の病期として、カタル期、蜂窩織期、壊疽期がある
 - (3) 外鼠径ヘルニアは小児に多い
 - (4) Meckel 憩室では、^{99m}Tc04 を用いたシンチが行われる
 - (5) Closed loop が形成されている場合は保存的に経過観察できることが多い

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

19. 肝の画像診断において正しいものはどれか
- (1) 肝細胞癌の検出には血管造影下 CT が第一選択となる
 - (2) ガドリニウム造影 MRI は早期肝細胞癌の検出に有用である
 - (3) EOB プリモビスト造影剤は正常肝細胞に取り込まれる
 - (4) 高分化型肝細胞癌ではしばしば脂肪含有が見られる
 - (5) 転移性肝癌の検出感度が最も高いモダリティは造影 CT である

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

20. 胃全摘後の再建術式として正しいものを選びなさい
- (a) Billroth I 法
 - (b) Billroth II 法
 - (c) Roux-en-Y 法
 - (d) 食道・十二指腸端端吻合
 - (e) 食道・十二指腸端側吻合

21. 虫垂炎の理学所見に関する用語と説明について正しいものはどれか
- (1) **Brumbeerg** 兆候：圧痛部位で腹部を圧迫して急に手を離すと疼痛が惹起される様子
 - (2) **Lanz** 点：臍と右上前腸骨棘を結ぶ外側 1/3 の点
 - (3) **Rosenstein** 徴候：右側臥位にして **McBurney** 点を圧迫すると仰臥位より疼痛が著明となる様子
 - (4) **Rovsing** 徴候：下行結腸に沿って口側に向かって逆蠕動性に圧迫すると、右下腹部に疼痛が起こる様子

(a) 1,2 (b) 2,3 (c) 3,4 (d) 1,4

22. 内視鏡的胃粘膜切除が外科的胃切除よりも選択されるべき事例は次のどれか
- (a) 画像上リンパ節転移や遠隔転移のない **SM** 浸潤胃癌
 - (b) 胃 **MALT** リンパ腫
 - (c) 20mm の **Ⅱa** 型分化型胃癌
 - (d) 胃 **GIST**
 - (e) 15mm の **Ⅱc** 型未分化型胃癌

23. 次の中で正しいものはどれか
- (1) 胃体上部から噴門直下に至る切除可能巨大 3 型進行胃癌では 2 群リンパ節郭清を伴う噴門側胃切除が妥当である
 - (2) 治療や薬の人での有効性や安全性について調べる試験を一般に「臨床試験」と呼び、第 1 相試験で健常な少人数を対象に探索的試験を行い、第 2 相で少数の患者を対象に、有効性・安全性などの検討を行い、第 3 相で大規模前向き比較試験を行う。
 - (3) **StageⅡ** および **StageⅢ** の進行胃癌では外科切除後に 1 年間の **S-1** 内服による術後補助化学療法が予後延長に寄与することが臨床試験にて証明された
 - (4) 非治療因子（腹膜播種、大動脈周囲リンパ節転移、孤立性肝転移）を有する進行胃癌では積極的に減量手術を行うことで予後が延長することが臨床試験で証明された
 - (5) 切除不能高度進行胃癌では化学療法により切除可能となっても、その外科切除を行っても予後が延長するわけではないので、緩和治療が第一選択である

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

24. 食道癌に関して次の中で誤っているものはどれか
- (a) 食道癌根治術における 3 領域郭清の 3 領域とは 1 群、2 群、3 群リンパ節領域を指す
 - (b) 反回神経領域リンパ節は食道癌において最も転移しやすく郭清すべきリンパ節である
 - (c) 術後に嗄声を認めたり、左右の声帯の正中固定による呼吸困難や喘鳴が起こることがあり、術後管理上注意を要する
 - (d) 高度進行食道癌では根治的放射線化学療法にサルベージ手術を行うことで予後の延長が認められることがある。
 - (e) 栄養療法は化学療法の中の腸管免疫の維持や化学療法の **dose intensity** に対する許容性を確保する上で重要な役割を果たすので、摂食不能な食道癌患者でも経管経腸栄養を積極的に行うべきである

25. 次の中で正しいのはどれか
- (1) イレウスは機械的イレウスと機能的イレウスに分類され、術後超早期の麻痺性イレウスは前者に分類される
 - (2) 絞扼性イレウスでは腹膜刺激症状単独での判別が容易である
 - (3) イレウスの保存治療や術前治療では、大量の消化管液の腸管内貯留を伴う脱水の補正と腸管内圧の減圧が重要である
 - (4) CT における絞扼性イレウスの特徴としては、**closed loop obstruction**、腸管壁の肥厚、**whirl sign**、腸管壁内ガス像などがある
 - (5) 鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアおよび閉鎖孔ヘルニアの嵌頓が腸閉塞の原因となることがあるので、見逃さないように注意する必要がある

(a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

26. 大腸癌について正しいものを選び
- (1) 大腸癌の発生において **p53** 遺伝子、**APC** 遺伝子、**K-ras** 遺伝子などの変異がその原因に関わっていると言われている
 - (2) **Stage I** の大腸癌の 5 年生存率は 90%以上である
 - (3) 切除不能大腸癌で化学療法により縮小が得られれば **conversion therapy** として切除可能となる場合がある
 - (4) 進行大腸癌の外科手術では腫瘍の両端から切除縁までの距離を 5cm 確保することが求められる
 - (5) 大腸癌の再発巣は積極的に切除しても予後延長に寄与しないので、症状の緩和を目的とした手術以外は成り立たないのが現状である

(a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

27. 直腸癌について正しいものを選び
- (1) 下部直腸癌症例では肛門温存をすることは再発リスクを高めるため行うべきではなく、腹会陰式直腸切除術が選択される
 - (2) 本邦での下部直腸癌症例の側方リンパ節転移陽性率は 16.7%であるため、積極的な側方リンパ節郭清が本邦では行われている
 - (3) 排尿機能や男性性機能の障害をできる限り回避するため自律神経温存手術が一般的である
 - (4) 腫瘍が歯状線に掛かる下部直腸癌であっても **ISR**（括約筋間切除術）を用いることで肛門温存が計れる場合がある
 - (5) 直腸癌には腹腔鏡手術の適応がない

(a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

28. 腸管感染症について、正しいものはどれか
- (1) 免疫抑制状態では、サイトメガロ腸炎が発症する可能性がある
 - (2) 偽膜性腸炎の薬物治療の第一選択はバンコマイシン経口投与である
 - (3) アメーバ赤痢の確定診断には便培養検査が必須である
 - (4) 回盲部の腸結核は稀である
 - (5) 腸管スピロヘータ症は重症化した後に発見される場合が多い

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

29. A 型胃炎について、正しいものはどれか
- (1) 大球性貧血を合併することがある
 - (2) カルチノイドが多発することがある
 - (3) **H.pylori** 感染がある場合は発症しない
 - (4) 主細胞が主に障害されて起こる
 - (5) 病変は前庭部（**antrum**）中心の分布となる

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

30. 大腸疾患の分類法、病因、及び組織像について、正しいものはどれか
- (1) **Duke's** 分類は大腸癌の肉眼形態の分類である
 - (2) 家族性大腸腺腫症は **K-ras** 遺伝子の **germline mutation** が原因とされる
 - (3) クロウン病は乾酪壊死を伴う類上皮肉芽腫が特徴的である
 - (4) 潰瘍性大腸炎の活動期には陰窩膿瘍が見られることが多い
 - (5) **Goligher** 分類は痔核の病期分類である

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

31. 胃、及び十二指腸疾患の病因、組織像について正しいものはどれか
- (1) **MALT** リンパ腫は **H.pylori** 感染と関係がある
 - (2) **Gastrointestinal stromal tumor (GIST)** の約 90%は免疫染色で **c-KIT** 陽性である
 - (3) セリアック病は **Tropheryma whipplei** の感染が原因とされる
 - (4) 胃生検材で **adenoma** は **Group4** に分類される
 - (5) **Borrmann** 分類は癌の壁深達度、リンパ節転移で判定する

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

32. 胃癌に関連して正しい組み合わせはどれか
- (1) 早期胃癌に対して標準的な加療が行われれば 5 年生存率は 90%以上である
 - (2) 大きさ 20mm のⅡc 分化型腺癌深達度 **SM1** 癌は **ESD** の適応拡大病変である
 - (3) **EUS**（超音波内視鏡）検査にて第 4 層までの浸潤を認める症例は早期胃癌である
 - (4) 大きさ 30mm のⅡc 印鑑細胞癌、粘膜内癌は **ESD** の適応拡大病変である
 - (5) 進行胃癌とは、癌腫が粘膜下層（**sm**）以深に浸潤を認めるものである

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

33. 胃疾患に関する次の記述のうち正しい組み合わせはどれか
- (1) H.pylori 感染は胃癌発がんのリスクである
 - (2) 手術可能な Gastrointestinal Stromal Tumor (GIST) に対しても、まずはメシル酸イマチニブにて加療を行う
 - (3) 胃 DLBCL (Diffuse large B-cell lymphoma) の治療として H.pylori の除菌治療が有効である
 - (4) A 型胃炎に伴うカルチノイド (NET G1) は転移率が 50%以上と高い
 - (5) 胃癌の左鎖骨上窩リンパ節転移を Virchow 転移という

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

34. 低蛋白血症がみられるのはどれか

- (1) 原発性乳糖不耐症
- (2) 腸リンパ管拡張症
- (3) 大腸絨毛腫瘍
- (4) Cronkhite-Canada 症候群
- (5) 過敏性腸症候群

(a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

35. 食道疾患に関する次の記述のうち誤っているものを 2 つ選んでください

- (1) 食道異物は第 2 狭窄部に最も多くみられる
- (2) 胸部中部食道 (Mt) は漿膜に覆われている
- (3) 逆流性食道炎の内視鏡分類として Los Angeles 分類がある
- (4) 早期食道癌は、原発巣の壁深達度が粘膜内にとどまり、リンパ節転移の有無は問わない
- (5) 食道癌の危険因子として飲酒、喫煙があげられる

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

36. 大腸癌について正しいのはどれか

- (1) 早期診断には CEA 測定が有用である
- (2) 低分化型腺癌が多い
- (3) 進行癌では 2 型が多い
- (4) 遠隔臓器への転移では肝転移が多い
- (5) 早期癌ではリンパ節転移はない

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

37. 潰瘍性大腸炎より Crohn 病に多い合併症はどれか

- (1) 大量腸出血
- (2) 肛門病変
- (3) 腸瘻
- (4) 腸閉塞
- (5) 中毒性巨大結腸症

(a) 1,2,3 (b) 1,2,5 (c) 1,4,5 (d) 2,3,4 (e) 3,4,5

38. 次のうちで正しい組み合わせはどれか

- (1) 消化管には約 1 兆個の腸内細菌が存在する
- (2) ESD (Endoscopi Submucosal Dissection) は食道静脈瘤に対する内視鏡的治療法である
- (3) 膵癌の男女計 5 年相対生存率は約 30%である
- (4) 反跳痛 (rebound tenderness) は腹膜刺激症状の一つである
- (5) 便秘の原因として機能的便秘が最も多い

(a) 1,2 (b) 1,5 (c) 2,3 (d) 3,4 (e) 4,5

39. 次のうちで誤っているものはどれか

- (a) 胃びらんとは、組織欠損が粘膜層のみの状態のことをさす
- (b) 10mm 以上の胃底腺ポリープは癌化を考慮して内視鏡適切除を行う
- (c) 機能的ディスペプシアでは各種検査にて明らかな器質的異常を認めないことが多い
- (d) 胃アニサキス症に対しては虫体の内視鏡的摘出が有効である
- (e) 胃・十二指腸潰瘍の治療薬の 1 つに、カリウムイオン競合型アシッドブロッカー (P-CAB) がある

40. H.pylori について正しいものはどれか

- (a) Strickland-Mackay 分類の A 型胃炎は、H.pylori 感染と関連が深い
- (b) H.pylori 陽性の慢性胃炎 (萎縮性胃炎) 患者は胃癌発生の低危険群である
- (c) 胃 MALT リンパ腫は H.pylori 除菌療法の保険適応である
- (d) 幼児期に自然感染した H.pylori は、ほとんど自然排除される
- (e) H.pylori 除菌治療後に再感染をきたすことはない